

広報

うわじまちくしょうぼう

第95号

宇和島地区消防本部
宇和島地区防火協会
http://www.119.uwajima.nanpu.or.jp/



2024年度全国統一防火標語

「守りたい 未来があるから 火の用心」

令和6年上半期中の火災・救急概況



火災14件・出火原因1位たき火



令和6年上半期（1月1日～6月30日）に発生した火災は14件（前年比5件減）、1万人あたりの出火率も前年の2.31件から1.74件と減少しています。火災による死者は昨年から発生していません。また、負傷者は2名（前年比3名減）となっています。火災種別では、その他火災が昨年と同様に最も多く7件、次いで建物火災が5件、車両火災2件となっています。火災原因は前年同様「たき火」が最も多く5件で、次いで「こんろ」「電灯・電話等配線」「電気機器」「観賞魚用ヒーター」「溶接機・切断機」「交通機関内配線」各1件などとなっています。



救急2,559件・搬送2,339人



令和6年上半期中の出場件数は2,559件（前年比224件増）、搬送人員は2,339人（前年比236人増）となっています。事故種別ごとにみると、急病が1,734件で全体の7割近くを占め、次いで一般負傷400件、転院搬送242件などとなっています。また、搬送人員を傷病程度別にみると、軽症が777人で全体の3割を超えている状況です。救急車は限りある資源ですので、救急車の適正利用にご協力下さい。

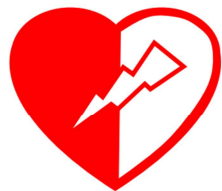
その命を救うために！

AEDステーション登録制度開始

令和6年度からAEDが設置されている事業所等を対象に「AEDステーション」として認定し、近隣で心臓や呼吸が停止する「心肺停止状態」となった人に対し、救急車が到着するまでの間にAEDステーションの登録AEDを使用することで、1人でも多くの住民の命を守ることを目的とした制度です。9月30日現在で宇和島市・松野町・鬼北町において191の事業所がご協力頂いております。登録頂いた事業所にはステッカー（うわじま・まつの・きほくAEDステーション）を配布し、外部に掲示して頂きます。詳しくは消防本部警防課へお問い合わせ下さい。

うわじま
AEDステーション

AED
Automated External Defibrillator



緊急時に貸し出しできます。

映像通報システムの実証実験を開始しました



映像通報システム

令和6年9月から、119番通報時にスマートフォンなどを活用した映像通報システムの実証実験を開始しました。映像通報システムとは？ スマートフォンのカメラ機能を利用して、火災や救急などの通報現場の状況を「見える化」する新しい映像通報システムです。

システムを導入で可能になることって？ 言葉で説明しづらい現場の状況を、通信指令室とリアルタイムで映像を通じて伝えることができるため、火災や救急現場の状況を具体的に伝えることができ、消防隊や救急隊の迅速な現場活動につながります。また、心肺蘇生法など応急手当の方法が分からない場合でも、通信指令室から送信する動画を見ながら応急手当を行うことができるようになります。

映像通報システムの流れ ④ 119番通報をつないだまま

- ① 119番通報時に通信指令員が必要と判断した場合、通信指令員が通報者に対し映像通報システムによる映像伝送のご協力を依頼します。
- ② 協力要請を了承していただいた通報者へ、通信指令員がショートメッセージ(SMS)を送信します。
- ③ ショートメッセージ(SMS)に記載されたURLをタップし、ウェブブラウザから映像通報システムを起動します。

- ④ 注意事項の確認、マイクやカメラ・位置情報の使用許可を行い、開始ボタンをタップして撮影を開始します。
- ⑤ 撮影している映像は通信指令室へ伝送され、通信指令員が現場の状況を映像で確認し、音声による指示等を行います。

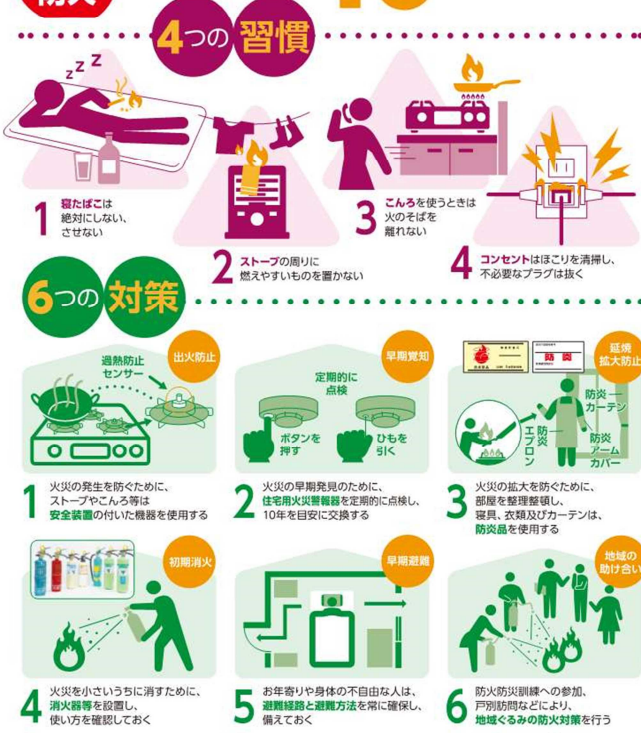
注意事項 システム使用時に発生する通信費は、通報者の負担です。ご協力依頼時にご説明いたします。119番通報時に通信指令員が必要と判断した時以外、通信指令室から映像通報システムショートメッセージ(SMS)を送信することはありません。ワンクリック詐欺等の特殊詐欺にはご注意ください。

秋の全国火災予防運動

11月9日(土)～11月15日(金)



住宅防火 いのちを守る10のポイント



11月9日から15日は秋の全国火災予防運動が実施されます。全国の火災件数をみると、住宅火災件数は平成17年以降減少を続け、令和2年に初めて1万件/年を下回ったものの、令和3年からは再び増加傾向にあり、死者数も増加傾向が続いています。令和6年能登半島地震では、石川県輪島市において、焼損棟数約240棟、焼失面積約49,000㎡という大規模な火災が発生しました。本火災の教訓を踏まえ、いのちを守る10のポイントに加え、今秋より地震火災対策の推進が呼びかけられています。大規模地震に電気を起因とする火災リスクを低減するため、感震ブレーカー等の普及推進が求められています。

県境ヘリポートにおいて合同訓練を実施

松野町東部の葛川地区に民間ヘリポートが建設され、7月17日に幡多中央消防組合四万十消防署西土佐分署及び高知県ドクターヘリとの連携訓練を実施しました。当地区は愛媛県と高知県境に位置し、医療機関への搬送に長時間を要する地域であり、ドクターヘリを利用することで宇和島市内への救急搬送時間が45分から約10分に短縮されます。

当日は、ヘリポート落成式も併せて行われ、地域住民が見守るなか、交通事故発生事案を想定した訓練を実施し、幡多中央消防本部から応援要請を受けた際の連絡体制及び現場でのヘリ警戒活動を確認しました。



令和6年度採用者紹介

令和6年度採用者4名は、4月4日から9月20日まで、第63回（令和6年度）愛媛県消防学校「初任教育」に入校しました。県内各消防本部から60名の新人消防士が半年間の厳しい学校生活を送りながら、仲間と共に消防人としての基礎を身につけました。

10月1日付けで各所属への異動が命じられ、各種災害に対応する現場職員としての一歩を踏み出しました。



みよしたかし
三好鷹志

消防士、公務員としての職責を自覚し、人命救助を通して宇和島地区の明るい未来を築いていけるよう、職務を全うしていきます。



ひょうどう ゆきと
兵頭優希斗

日々の訓練から努力し、どんな現場でも対応でき、災害時には住民の方々に頼られる一人前の消防士になります。



やくしじん はく
薬師神波空

日々鍛錬し、知識や技術を身につけて一人前の消防士として現場で活躍できるように頑張ります。



うめわらいたいご
梅村太梧

1人でも多くの要救助者を救えるよう日々鍛錬し、頼りがいのある一人前の消防士になれるよう頑張ります。